

令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立第一中学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
1年	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	本年度結果 偏差値平均	51.6	51.4	51.8	53.1	51.6	52
2年	前年度結果 偏差値平均	50.6	50.6	50.4	52.3	49.7	50.7
	本年度結果 偏差値平均	52.6	48.9	47.8	48.2	50.6	49.6
3年	前年度結果 偏差値平均	50.4	47.3	47.6	50.4	46.7	48.8
	本年度結果 偏差値平均	48.2	49.2	47	49.5	49.1	46.1
全体	前年度結果 偏差値平均	51.7	51.1	50.8	52.7	49.6	51.3
	本年度結果 偏差値平均	50.2	51.2	49.3	49.9	50.4	49.6

②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第3学年対象)

教科	国語	数学	英語
前年度結果 (対県比)	73 (105)	62 (124)	/
本年度結果 (対県比)	68 (97)	54 (106)	39 (86)

2. 調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて)	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)
<p>●国語では、1学年「目的に応じて話の内容をとらえる」(53.6%)、2学年「主題や構成を読み取る」(50.1%)、3学年「情報の扱い方、敬語等」(57.1%)「要点をとらえ内容を解釈する」(34.7%)において課題が見られた。</p> <p>●社会では、1学年「都道府県の名称と位置」(38.0%)、2学年「世界の古代文明と原始時代の日本」(39.5%)、3年「自然環境から見た日本の姿」(44.4%)において課題が見られた。</p> <p>●数学では、1学年「起こり得る場合」(50.8%)、2学年「方程式」(38.6%)、3学年「平行線や多角形の角の性質」(60.9%)において課題が見られた。</p> <p>●理科では、1学年「燃焼の仕組み」(73.4)、2学年「生物の観察」(43.8%)、3学年「日本の気象」(39.9%)において課題が見られた。</p> <p>●英語では1学年「自分に関する英語を書くこと」(7.5%)、2学年「長文の概要や要点を読み取る」(40.0%)、3学年「考えや気持ちを正しく伝える」(40.9%)において課題が見られた。</p>	<p>●思考力、判断力、表現力等における「A 話すこと・聞くこと」の領域、大問1三(本校75.%, 全国76.5)、1四(本校81.3%, 全国85.6%)と課題が見られた。知識及び技能における「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」では大問3二(本校18.8%, 全国40.1%)となっており、課題が大きい。</p> <p>●「図形」「関数」は下回っている。問題別項目では、全国平均を下回った項目が5項目あり、特に「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる」が、全国平均30.5%に対し、18.8%と11%以下回っており、特に図形に課題があると考えられる。</p> <p>●「書くこと」(全国23.4 本校15.0)、「読むこと」(全国51.2 本校43.8)最も課題が見られたのは「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く」という問題で、正答率が低く、無回答率が高い。正答率(全国19.5 本校00.0) 無回答率(全国29.3 本校50.0)</p> <p>●国語「解答を文章で書く」(全国+0.6、県-4.9)、数学「解答を言葉や数、式を使って説明する」(全国-7.1)、英語「まとまりのある文章を書く」(全国-9.7)と自分の考えや思いを条件に合わせて表現することに苦手意識が大きいことが分かる。</p>

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全教諭が、明らかになった課題の改善を意識して、学習のねらいを明確にした授業を行う。</p> <p>○全教諭が、思考力・判断力・表現力を高めるために主体的で深い学びの実現に向けて授業改善を行う。</p> <p>○全学年で基礎学力の定着を図る。</p>	<p>①本時のめあて・目標を具体的に示しその時間に目指す姿を明確にさせる。</p> <p>②振り返りや鑑賞文、まとめを記述させる際に、めあて・目標に準じて記述するよう意識させる。ルーブリックを提示することで、記述のポイントを明確にするとともに、生徒に意欲的に活動に取り組ませる。</p> <p>③単元・授業の構成において教える場面思考させる場面のメリハリをつける。</p> <p>④生徒を対象に授業アンケートを実施し、授業改善に反映させる。</p> <p>⑤全学年でセミナー等を活用した家庭学習と毎日の帯学習につながりを持たせる。朝の活動でマイルインドを利用した基本問題を実施する。</p> <p>⑥NRTや実力テストの結果を分析し、教員間で課題を共有するとともに、課題に応じてアシストシート等を利用した補強を行う。</p> <p>⑦国・数・英について、3年生では授業内で全国学力の課題が大きい部分に再チャレンジする。1、2年生では、朝の学習の時間を利用し、全国学力からピックアップした問題に取り組む。</p>	<p>①通年</p> <p>②通年</p> <p>③通年</p> <p>④毎学期</p> <p>⑤通年</p> <p>⑥7月、9月、1月</p> <p>⑦10月以降</p>	<p>○実力テストで全国平均を上回る生徒の割合70%以上</p> <p>○学習の目標や到達点がわかりやすく示されている。と答える生徒の割合90%以上</p> <p>7月93.0%</p> <p>○「考えてみよう・取り組んでみようを思える学習活動があり、学びが深まっている」と解答する生徒の割合80%以上</p> <p>7月91.1%</p> <p>○Q-Uにおいて学習意欲の数値全学級全国得点+3以上</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○生徒会活動や学校行事を中心にリーダーの育成を図り、生徒が自信をもって、主体的に学校活動に取り組めるよう、支援する。</p> <p>○学級活動などにおいて自己決定の場をつくり、役割に対して責任感をもって取り組む経験をさせる。また、それらに対し、適宜評価する。</p> <p>○かかわりのスキルを身に付けさせるために、話し合いや認め合いの場を設定する。</p> <p>○生徒が抱える困り感や課題を適切に把握し、教員間で統一された支援をする。</p>	<p>①Q-Uの分析による実態把握</p> <p>②個人面談の計画的な実施</p> <p>③各学級実態と改善計画の共有</p> <p>④校内研修(生徒理解、SCIによる講義・演習、新転任者を含めた生徒理解)</p>	<p>①6月、11月</p> <p>②学期ごとに適宜</p> <p>③6月、11月</p> <p>④4月、8月、1月</p>	<p>○Q-U2回目の不満足群・非承認群・侵害行為認知群の対象生徒数の減少(1回目との比較)</p>